

私とヴァイオリン

三蔵子小・4 石本 双葉

私には、小さいころから続けていることが一つだけあります。それは、ヴァイオリンです、四さいになる少し前から始めました。ヴァイオリンがすごく好きだから続けてこられたかという、そうではありません。できるようになつてうれしかったり、ひくことが楽しいと思ったりすることももちろんあります。でも、練習やふ読みが大変でいらしてしまうこともあります。こんなにむずかしい楽ふ読めない、こんなに指が速く動かせない、ポジションいどうがうまくいかない、音ていがうまくとれない、左手に氣を取られて右手の動きができていない、などと考えることがたくさんいっぱいです。頭の中がごちゃごちゃになり、練習がとても大変だからです。本当にいつかできるようになるのかな、と不安になることもあります。でも、あきらめずに練習を続けていると

「できた！」

と思う時が必ずやってきます。いらいらしているとその時がなかなかこないけれど、よく考えて右手、左手を動かし、自分がこの曲をどう表現したいか、氣をつけることは何かを考えてひいた時にはうまくいくことに気づきました。「できないできない」という気持ちで少し変えて、落ち着いてよく考えることで、少しずつ変化していることがわかってきました。今でもうまくできないことが続くといら

よかったか落ち着いてよく考え、がんばっていればぜったいできるようになると思うようにしています。

時々、コンクールに出て大きなぶ台に立ち、人前でひくことや、目標に向かってがんばる練習をしています。楽しくのびのびとひければいいけれど、あんな所で楽しくひくことは私にはむずかしくて、いつも足ががくがくふるえてしまいます。そんな時は、今まで自分がどんな努力してきたのかをふり返つて自分をほめるようにしています。あんなに毎日がんばってきたからきっと大丈夫、できる！と思うようにしています。それから先生や母から教えてもらったことや、ほめてもらったことを思い出して自信に変えてぶ台の真ん中に出発します。聞いてくれる人の心にひびく音をとけようと、一音目に心をこめてひき始めるようにしています。自分の気持ちにしっかりと向き合つて、きんちようをコントロールしています。曲をひく前は足がふるえているけれど、ふしぎとひき始めるといつも通り集中してひくことができ、あつという間に終わってしまいます。どんなにきんちようしていても、練習した分だけ指が助けてくれます。ひき終わるとたくさんのはく手が聞こえ、安心します。結果が良くても良くてなくても、ひき終えた後の達成感はずうに生活しているだけでは味わえない特別なものだと思います。

また、自分以外の子の演そうもなるべく聞くようにしています。聞いていると上手な子はその曲にあったひき方をしていたり、どうだと自信をもって表現したりしています。どの子の演そうもすばらしくて、自分ももっともつと上手になりたいという気持ちになります。

たくさんさんの習い事がある中で、私はヴァイオリンだけは続けてこ

られました。好きかどうか、上手かどうかということも大事だけれど、続けること、努力すること、自分の気持ちとしつかり向き合うことの大切さを教えてくれたのはヴァイオリンでした。ヴァイオリンを続けることで、自分の力になっていることはたくさんあると思います。それを自分の生活に生かしていけるといいなと思います。

そして、大変な時だからこそ先生にほめてもらおうとうれしくて、またがんばることが出来ます。前向きな気持ちでがんばってこれたのは、先生や家族のほげましの言葉のおかげだと思っています。私も周りの人を元気にしたり勇気づけたりする言葉をかけられる人になりたいなと思いました。ヴァイオリンと周りの応えんしてくれる人たちに感謝しながら、これからも続けていきたいと思っています。